

令和7年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

第 3 号

令和7年 5月 30日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

たんぽぽ色の感謝の気持ち

校長 正田 真由美

昨年度の6月の学校だよりでは、私の中学校時代の話をしました。今年度は小学校時代の話したいと思います。小学校を卒業して、もう45年以上経ちました。昨年度も振り返ってみて驚きましたが、日頃、たくさんの中学生に囲まれて生活している時間が長いせいか、数字で見るとあまり気にしていない時間の流れの速さを感じてしまいます。

この話は、私が小学校2年生の1学期のある日の出来事です。学校からの帰り道、クラスの友達2人と一緒に話しながら歩いている時でした。話に夢中になり過ぎていて、あっと気付いた時には遅く、私は道路の真ん中にあった犬の糞を踏んでしまいました。一緒にいた友達も、ものすごく驚いていました。一人の友達が「大丈夫だよ。」と声をかけてくれたので、そのまま家へ帰りました。家に帰りついたと同時に母に話しました。その後、母は私の靴をきれいに洗ってくれていました。

ところが翌日、学校に行くとクラスの男子から「犬のうんち菌～」と朝から言われ、すごく嫌な気持ちで過ごしました。男子がいろいろ言ったのか、クラス的女子も私と話してくれない人がいました。昨日のことを知っているのは一緒に帰った2人だけだから、きっと2人うちのどちらかが話をしたんだと思いました。その日の帰りは1人でした。友達と一緒に帰ってくれない、寂しい帰り道が1週間くらい続きました。もちろん、学校生活の中でも男子のからかいが続きました。1週間が過ぎた頃、一緒に帰っていた時に何も言わなかった方の友達が「一緒に帰ろう！」と声をかけてくれました。私の心の中に、ポツと明るさと温かさが広がりました。帰り道に友達が「靴が踏んじちゃったんだし、直接じゃないもんね。私も話せなくて寂しかった。あのね、私、みんなに話していないよ。」と話してくれました。私の心の中には、「大丈夫だよ。」と言ってくれた友達の言葉がぐるぐると渦を巻いていました。

1週間頑張って学校に行っていたけど、本当はすごく辛かったです。担任の先生に自分からは話さなかったから、気付いていたのか分かりません。先生からは特に話はなかったです。今、思い返すと「いじめ」【定義：児童等に対して、当該児童等が在席する学校に在席している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛と感じているものをいう。『いじめ防止対策推進法』より】に当たるのだと思います。私自身が「いじめ」と認識したのは、少ししてからでした。今でもこの時のことを思い出すと暗い気持ちになります。

今も毎日家で話を聞いてくれ、すぐに靴を履いていくことはできなかったけど、糞の付いた靴をきれいに洗ってくれた母には感謝しています。そして、私に「一緒に帰ろう！」と声をかけてくれた友達にも感謝しています。私の心の中に、たんぽぽ色の感謝の気持ちを作ってくれた2人に今も感謝しています。

5月の朝礼でも話しましたが、学校生活は集団生活です。これだけの大人数が生活しているわけですから、人として相性が合う人も合わない人もいますが、それでも『自分だけよければ、楽しければ』という個人に偏った考えではなく、『周りの人も気持ちよく、楽しく過ごせれば』と心に思っ